

感じるリズム
見つけるカラダ

アートによる新生ふくしま交流事業 アートで広げる子どもの未来プロジェクト
福島藝術計画 2023

記録集

アートで広げる子どもの未来プロジェクト福島芸術計画
2023 では、今年度、福島県立会津支援学校のみなさんと二つのワークショップを行いました。一つは喜多方で作られていた染型紙「会津型」の歴史や魅力を学び、陶芸・手工芸・和紙製品に活かして新たなものづくりにチャレンジしたワークショップ「くるくるとんとん会津型」。もう一つは日本や世界の音に合わせて体を動かし身体で表現することを楽しんだワークショップ「感じるリズム 見つけるカラダ」です。

ワークショップ「感じるリズム 見つけるカラダ」では、小学部4・6年生、中学部1年生、高等部1・3年生がコンテンポラリーダンサーの平山素子さんに導かれながら心も身体も解放してリズムを感じ、自分の身体と出会い直しました。小学生、中学生、高校生たちが、リズムを感じ、自分のカラダと出会ったその様子をお伝えします。



平山素子

コンテンポラリーダンサー／振付家

静謐さと昂揚を自在に奏でる表現者として高い人気を誇り、芸術選奨文部科学大臣新人賞、江口隆哉賞などを受賞。数々のツアーを成功に収め、洗練されつつ開拓心を失わないアーティストとして日本のダンスシーンをリードする存在。筑波大学体育系准教授。





自分の身体はどこにある

福島県立博物館 専門員 川延 安直

会津支援学校とのお付き合いが始まった頃、最初に参観させていただいたのは音楽の授業でした。比較的重度の障がいのある子どもたちの授業で、この子どもたちと一緒にできることは何だろうと深く考え込んでしまったのを今でもよく覚えています。

昨年度は身体の動きに合わせて音や光を発するツールを音楽家のシーナアキコさんに提供いただき、教室を不思議で楽しい空間に魔法のように塗り替えました。子どもたちは音を出す、光と遊ぶ、そのことに熱中して、知らず知らずのうちに元気全開で身体を動かしていました。

そして迎えた今年度、ダンスの手法で生徒の誰もが参加できるワークショップ

を実施しました。タイトルは「感じるリズム 見つけるカラダ」。支援学校との最初の出会いで感じた悩みは一気に解消。これだと思いました。子どもたちがいろいろな音楽を通してリズムを全身で感じ取り、リズムを感じている自分のカラダを見つける。そんな循環ができればいいなとぼんやり考えていたことが実現しました！それをかなえてくださったのが筑波大学准教授として後進の指導にもあたっている世界的なコンテンポラリーダンサーの平山素子さんです。以前に福島県立博物館の展示室を会場におこなったダンスパフォーマンスでは驚異的な身体能力と豊かな表現力を見せてくださいました。

平山さんと先生たちと綿密な打ち合わせを行い、子どもたちの特性を理解した上でおこなったワークショップでは子どもたちのカラダが爆発しました。一糸乱れぬ揃ったダンスではもちろんありません。それは目指していません。でも、みんなが楽しんでいる。そのオーラが教室を包み込んでいました。

重度の障害の子どもたちも参加してくれました。最初の音楽の授業で出会った子どもたちもありました。身体を動かさない子どもたちとの意思疎通はまだ私にはできません。それでも平山さんのアシスタントを務

めてくれた大学院生の伊藤さんのストレッチにリラックスしてウトウトしてしまう子の姿に身体感覚の奥深さを見た気がします。担任の先生から「目が良く動いています。」「体が温まっています。」と教えていただき、このワークショップの成功を実感できました。

音楽を感じる、楽しむ。

自分の身体の実在に気づく。

そんな普段は気にすることもないけれど大事なことを子どもたちと平山さんが教えてくれました。

ありがとうございました。



ダンスを通した“対話”

福島県立会津支援学校 地域連携 担当 佐藤 愛子

昨年度のワークショップに参加した学級から、今年度もぜひ外部専門家との授業を行いたい！との要望があり依頼したところ、これまでも児童生徒や校内の様子を見てくださっている福島県立博物館の皆様の視点からダンスの提案をいただき実施することができました。講師の平山先生と博物館の皆様が、事前に来校して児童生徒の様子を見学したり、参加学級の教員とオンラインでの打ち合わせを行ったりし、児童生徒の実態や運動の経験、身体の動かし方等についての情報共有をしてくださったことで、児童生徒の興味関心に合った道具の準備や、安心して活動に参加できるような配慮をしていただきました。

当日は、平山先生と伊藤先生の言葉に合わせてイメージをして体を動かしたり、リトミックスカーフやエッグマラカスを使ったりしながら、たくさんの身体の動かし方を教えていただくことができました。普段からダンスや身体を動かすことが大好きな子どもたちが、さらにキラキラと目を輝かせて講師の先生方の動きを見たり、楽しく自分の身体を動かしたりしている姿が印象的でした。

福島県立博物館との連携で、学校外の方々の方の発想をいただき、普段の授業とは異なる雰囲気や体験をさせていただけたことで、児童生徒にとって貴重な経験となりました。携わってくださった皆様に心より感謝いたします。

高等部

感じるリズム 見つけるカラダ

1回目：11月6日（月）

2回目：12月1日（金）

3回目：12月15日（金）

高等部1学年1組・3学年1組

プレイルーム

講師：平山素子

アシスタント：伊藤未唯

高等部1学年1組、3学年1組の3人の生徒が3回にわたってワークショップに参加しました。少しずつ体をほぐすことからスタートし、世界各地の音楽にあわせて体でリズムを表現することにチャレンジしました。平山さん、伊藤さんの動きに魅せられている表情や気持ちよく体を動かし続ける様子は、回を重ねるごとに熱を帯び、3回目には担任の先生から「今、とても真剣に取り組んでいます！」という言葉をお聞きできました。









高等部ダンスのWS 感想

高等部1・3学年1組 担当 馬場 由佳子

3回のワークショップを通して感じたのは、生徒達の「楽しかった」の表情です。

プロダンサーの平山先生や伊藤先生と一緒に、音や音楽を感じて体を動かす経験は、生徒達にとって貴重な機会でした。

マイペースで自由に動く生徒、緊張していたけどよく周りを見ていた生徒、真面目に積極的にコミュニケーションをとろうとする生徒、3人ともワークショップを通して「ダンスって楽しい」を感じた様子が見られました。ワークショップが終わってからも、教師が目の前でダンスをすると笑顔を見せて喜ぶことが増えています。

心残りは、私もはずかしがらずにもっとダンスを楽しめば良かったなあということです。ダンスは上手い下手ではなく、楽しむことが大事だと講師の先生や生徒達に教えていただきました。ありがとうございました。



中学部

感じるリズム 見つけるカラダ

11月30日（木）

中学部1学年

プレイルーム

講師：平山素子

アシスタント：伊藤未唯

中学部に向けた1回のワークショップ内で、いかに音やリズムを感じ、自分の身体と出会えるかを考えて平山さんは内容を組んでくださいました。世界各地の音色やリズムの多様さも感じてもらいたいとセレクトされた音楽にあわせ、平山さんに誘われるように普段とは異なる動きをする体。体を動かすことを思う存分楽しみながら新しい自分のカラダを見つけてくれたようです。



こんなに動く!? 私たちのからだ

中学部1学年 担当 江見 由香

日頃から音楽を聴くことやそれに合わせて体を動かすことが大好きな1学年の生徒達ですが、当日はいつも聴いているような音楽ではなく、リズムが中心の音楽だったので、どうなることかと思ったのですが、平山先生の動きと巧みな言葉掛けで、みんなニコニコしながら動き始めました。感心したのは、普段はやらないであろう腕を背中に回して輪を作る動きなどができたり、

途中で休みたいと言ったりすることなく約1単位時間（50分）動き続けたことです。一人一人が、思う存分体を動かし、それが楽しいと感じているということを体全体で表現していました。ワークショップが終了した後の生徒達からは、充実感や達成感が伝わってきました。

このような体験の場を設けていただき本当にありがとうございました。





小学部

感じるリズム 見つけるカラダ

1回目：11月30日（木）

2回目：12月1日（金）

3回目：12月15日（金）＊4学年のみ

小学部4学年・6学年

6学年：プレイルーム

4学年：1回目・2回目 教室（リモート）、

3回目 プレイルーム

講師：平山素子

アシスタント：伊藤未唯

3回ワークショップを重ねる中で、リズムに体をあわせて動かすことからテーマにあわせて自分を表現してみることに挑戦しました。思い切り体を動かす気持ち良さ、音にあわせる楽しさを味わった1回目。2回目、3回目は平山さん、伊藤さんから投げかけられる「食べたい食べ物を食べてみる」「動物園で見てみたい動物になってみる」というテーマを自分ならではの動きで表現してみました。









未知のリズムにふれて

小学部4学年 担当 五十嵐 亜子

小学部4学年は本事業に初めて参加しました。普段経験できない音楽や表現に触れたいと相談したところ、ダンスのワークショップを提案いただきました。

講師の平山先生と伊藤先生はとても楽しい雰囲気です。進めてくださいました。はじめはゆっくり全身を動かし、曲調が早くなってくると、子どもたちもテンションが上がってノリノリに。リトミックスカーフを使った先生方の華麗なダンスに皆釘付けになりました。スカーフの動きや色、感触などもじっくり感じる事ができました。

子どもたちから「布を使ったダンスが楽しかった。」「またやりたい。」などの感想が出ました。自然と身体が動き出すとても魅力的な活動だったと感じます。

講師の先生方、県立博物館の皆様にはお忙しい中、丁寧に進めていただき、感謝申し上げます。ぜひまた子どもたちが心動かされる活動を一緒に計画させていただけると嬉しいです。

音楽とリズムに誘われて

小学部6学年 担当 木戸 真喜子

初めて聞く音楽が流れました。子どもたちはどんな反応をするのか!?見守る私たちもドキドキでしたが、平山先生の魔法の言葉かけとしなやかな体の動きに一気に引き付けられ、子どもたちは自然と体を動かし始めました。伊藤先生の笑顔と温かい言葉かけにもさらに後押しされ、笑顔いっぱい音楽を楽しむ姿が見られました。まさに、『感じるリズム 見つけるカラダ』でした。初めての動きにも楽しんで挑戦したり、リトミックスカーフの柔らかさやふわふわとした感触を味わいながら表現したり、エッグマラカスをいろいろな動きで鳴らしたりなど、初めて尽くしの充実した時間となりました。ワークショップ後の子どもたちは、たくさん汗をかいており、充実感、満足感でいっぱいでした。

講師の先生方、博物館の皆様、このような機会を設定していただきありがとうございました。またぜひ、子どもたちの学びにつながる交流の機会をお願いします。

リンクコーディネーターとしての県立博物館

福島県立会津支援学校長 加藤 香洋

本校は、障がいのある子どもたちが生涯にわたって自らの可能性を追求し、地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、学校経営・運営ビジョンに「地域との連携・協働」を掲げ、多様な学習活動の充実に向けた取組を推進しています。

県立博物館とは年間を通じて連携・協働して授業づくりを行っています。なかでも今年度実施した「福島藝術計画」は次のような点で大きな意味をもっています。

まずひとつは、地域の伝統や文化に触れることで、子どもたちは地域が大切に守ってきた価値に気づき、継承者としての自分の役割を知ったことです。喜多方市教育委員会とつながり、伝統的な「会津型」のワークショップを実施していただきました。「会津型」を学ぶことで、子どもたちは地域の歴史に向き合い、活力ある社会づくりに貢献した先人のスピリッツを感じることができました。

次に多様性を尊重し互いの価値観を共有する機会を得たことです。音楽とともに体で自由に表現するダンスのワークショップをとおして、子どもたちは他者と共感したり、言葉

を越えて理解する自由な翼を手に入れることができました。感動を分かち合うことの喜びに満ちた子どもたちの笑顔は、未来を生きる世代がこの場で育ちつつあることを実感させてくれるものでした。

すべてのワークショップは、子どもたちの抱える課題や困難を「弱み」として捉えそこに着目して支えるという視点ではなく、子どもたちが持っている「長所・強み」に着目し、可能性を引き出していくエンパワメントの視点でおこなわれており、子どもたち一人一人が学びの主人公でした。

近年、「多様性」「包摂性」に「公平、公正」を加えた DE&I (Diversity, Equity and Inclusion) の考え方が重視されています。ワークショップは、教育的ニーズに合わせて公平、公正に教育資源を配分するという理念を正に体现するものでした。

学校に「あるもの」と「ないもの」を組み合わせ、新たな価値を生み出す一。本校にとって県立博物館は、専門性を持つ人々とつなぎ、空間と時間を共有しながら新たな学習コンテンツへと導くリンクコーディネーター、紐帯のような存在です。県立博物館をとおして、子どもたちはふくしまを発見し、多くの人やもの、文化に出会いふれあうことができました。これからも本校ならではの学びの創造に伴走し、障がいのある子どもたちの学びの可能性を広げてくれることを期待しています。

子どもたちの無限の好奇心と可能性

福島県立博物館長 川名 義則

福島県立博物館では、より地域や県民の方々に広く愛される施設となるため、「誰もが利用できる博物館」、「みなさんをつくる博物館」を目指し、様々な団体と連携しながら事業を展開しています。

御紹介するのは、多彩なアートプログラムの実施により子どもたちの豊かな成長を支援する事業である「アートで広げる子どもの未来プロジェクト福島芸術計画2023」において、令和5年度に、当館と会津支援学校が連携して「ダンス」に取り組んだ成果です。

小学部から高等部の生徒たちがダンスのワークショップに取り組み、最初は固い表情だった生徒たちも音楽に合わせて身体を動かすうちに徐々に緊張がほぐれ、コンテンポラリーダンサーの平山素子さんや先生たちと一緒にダンスを楽しみました。生徒たちの表情は皆キラキラと輝き、自分を思いきり身体の

動きで表現しています。これからも様々な方法で素敵な自分を表現してほしいです。

当館では令和3年度から会津支援学校と連携して各種プログラムを展開しています。どのようにしたら児童・生徒たちのよさや好奇心、可能性を引き出すことができるか、日頃からきめ細かに協議しながらプログラムを組み立てており、今後この取組をさらに「シンカ」させていきたいものです。

当館には、各分野の貴重な本物の資料、専門知識がある学芸員、そして、様々なアイデアがあり、より多くの方に当館を活用していただきたいと考えています。この記録集を大勢の皆さんがご覧になり、関心を持っていただき、福島県の子どもたちの無限の好奇心と可能性を引き出すため、この取組の輪が他の学校にも広がっていくことを願っています。

くるくるとん会津型 感じるリズム 見つけるカラダ 成果展

+ 会津支援学校と福島県博の2023年度

会期：2024年
2月20日(火)～3月10日(日)

会場：福島県立博物館
雪国ものづくり広場なんだべや

本展ではワークショップの様子を伝える映像作品をご覧くださいました。子どもたちの表情、体の動き、平山さん、伊藤さんと子どもたちの心の応答、先生との信頼感などが実感される映像でした。

映像作品「感じるリズム 見つけるカラダ」
撮影・編集：岩波友紀



令和5年度アートによる新生ふくしま交流事業
アートで広げる子どもの未来プロジェクト
福島藝術計画2023

感じるリズム 見つけるカラダ

ワークショップ講師 | 平山素子
アシスタント | 伊藤未唯

主催 | 福島県
協力 | 福島県立会津支援学校
企画運営 | 福島県立博物館 川延安直、西尾祥子、小林めぐみ、塚本麻衣子
事業受託者 | 認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島（福島市）

アートで広げる子どもの未来プロジェクトは、
福島の未来を担う子どもたちに、将来「新生ふくしま」を推進する人材として
活躍してもらうため、多彩なアートプログラムを体験できるワークショップを
実施することで心豊かな成長を支援します。

感じるリズム 見つけるカラダ記録集

テキスト | 川延安直、小林めぐみ
撮影 | 川延安直、小林めぐみ、西尾祥子、塚本麻衣子
編集 | 小林めぐみ、西尾祥子、川延安直、塚本麻衣子
デザイン | 江畑芳
発行 | 福島県

この事業は、国内外からお寄せいただいた寄附金をもとに造成された「福島県
東日本大震災子ども支援基金」により実施しています。

